



学 会 通 信

第 88 号

2018 年 10 月 31 日発行

目次

2018 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 25 回年次大会のご案内【直前号】	8
ICoME 2018 のご報告	20
2018 年度第 1 回企画委員会 ワークショップのご報告	21
2018 年度第 2 回企画委員会 ワークショップのご案内	23
2018 年度第 1 回研究委員会 研究会のご報告	25
理事会（定例）議事録（抄）	26
論文投稿のご案内	28
学会費納入のお願い，入会者・退会者	28

2018 年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により 2018 年度日本教育メディア学会定例会総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2018 年 11 月 16 日（金）必着）。

2018 年 10 月 25 日
日本教育メディア学会
会長 黒上 晴夫

記

1.日 時：2018 年 11 月 24 日（土）12:30－13:20（年次大会第 1 日目）

2.場 所：鹿児島大学第 1 講義棟 103 講義室

3.内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2017 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2017 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2018 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2018 年度収支予算（案）

第 3 号議案 第 9 期会長・理事・監事承認の件

(2) 報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②名誉会員表彰の件
- ③2019年度年次大会の件
- ④ICoME2019の件
- ⑤その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2017年度事業報告及び収支決算承認の件

2017年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第24巻1号、第24巻2号を刊行し、会員に配布した。
2. 学会通信第82号(2017年5月26日発行)、第83号(2017年6月30日発行)、第84号(2017年9月18日)、第85号(2018年1月19日発行)を刊行し、会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第24回年次大会を、茨城大学で開催した(2017年10月14日～10月15日)。
また、「第24回年次大会発表論文集」を刊行した。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催した。
 - (1) 2017年度第1回日本教育メディア学会研究会
「次期学習指導要領に対応する教育と小中高大接続／一般」
(2017年7月15日：金沢星稜大学)
 - (2) 2017年度第2回日本教育メディア学会研究会
「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価／一般」
(2018年3月3日：創価大学)

2. ICoME2017を共同開催した。(2017年8月2日～8月4日：ハワイ大学)

3. 企画委員会によるワークショップを開催した。
 - (1) 研究委員会との合同ワークショップ
「次期学習指導要領を見据えた授業づくり」

(2017年7月15日：金沢星稜大学)

(2) ワークショップ「今だからこそ！日本の英語教育を考える」

(2018年1月28日：パナソニックセンター)

④2017年度収支決算，監査報告

2017年度収支決算を次ページに記す。

2017年度収支決算（自2017.4.1～至2018.3.31）

1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,699,333	3,699,333	0	2016年度から繰り入れ
正会員会費	1,631,000	1,624,000	▲ 7,000	232名分
学生会員会費	100,000	64,000	▲ 36,000	16名分
団体会員会費	300,000	250,000	▲ 50,000	5団体
購読会員会費	70,000	63,000	▲ 7,000	9会員
過年度正会員会費	126,000	308,000	182,000	44名分
過年度学生会員会費	8,000	0	▲ 8,000	0名
過年度団体会員会費	0	50,000	50,000	1団体
過年度購読会員会費	21,000	28,000	7,000	4会員
入会金	50,000	62,000	12,000	31名分
雑収入	200,000	259,028	59,028	別刷り印刷、利子
計	6,205,333	6,407,361	202,028	

2017年度収支決算（自2017.4.1～至2018.3.31）

2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	300,000	241,563	▲ 58,437	学会誌・別刷郵送費、その他郵送費
消耗品	100,000	63,886	▲ 36,114	用紙、封筒
設備・什器	0	67,820	67,820	ソフトウェア
印刷製本	1,000,000	1,063,004	63,004	教育メディア研究24(1)・24(2)
会議費	100,000	24,500	▲ 75,500	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	0	0	0	ICoME2017国外開催のため
借損料	50,000	73,920	23,920	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	200,000	75,640	▲ 124,360	監査に係る旅費、事務員旅費
諸謝金	550,000	535,000	▲ 15,000	事務局補助謝金、J-Stage移行謝金
年次大会委託費	400,000	165,973	▲ 234,027	参加費等による黒字
研究会委託費	200,000	65,595	▲ 134,405	参加費等による黒字
企画委員会委託費	200,000	185,980	▲ 14,020	
雑費	100,000	89,208	▲ 10,792	振込手数料、ホスティングサーバー料金、DNS料金、選挙システム料金
予備費	3,005,333	56,145	▲ 2,949,188	論文賞創設にかかる費用
次年度繰越金	0	3,699,127	3,699,127	2018年度に繰り越し
計	6,205,333	6,407,361	202,028	

第2号議案 2018年度事業計画及び収支予算案

2018年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第25巻1号, 第25巻2号を刊行し, 会員に配布する。
2. 学会通信第86号～第89号を刊行し, 会員に公開する (メールリングリスト, Web サイト)。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第25回年次大会を, 鹿児島大学で開催する(2018年11月24日～11月25日)。
また, 「第25回年次大会発表論文集」を刊行し, 申込者に配布する。

③学术交流等

1. 次の研究会を開催する。

(1) 2018年度第1回日本教育メディア学会研究会

(2018年7月8日: はこだてみらい館)

(2) 2018年度第2回日本教育メディア学会研究会

(2019年3月9日: 福井大学)

2. ICoME2018 を共同開催する。 (2018年8月16日～19日: Chungbuk National University)

3. 企画委員会企画を年2回(7月および2月)開催する。

④2018年度収支予算(案)

2018年度収支予算(案)を次ページに記す。

2018年度予算（自2018.4.1～至2019.3.31）

1. 収入の部

収入項目	前年度決算	予算額	備 考
繰越金	3,699,333	3,699,127	2017年度から繰り入れ
正会員会費	1,624,000	1,708,000	7,000円×244名（納入率80%）
学生会員会費	64,000	108,000	4,000円×27名分（納入率60%）
団体会員会費	250,000	300,000	6団体
購読会員会費	63,000	77,000	11会員
過年度正会員会費	308,000	126,000	7,000円×18名分（未納者の30%）
過年度学生会員会費	0	8,000	4,000円×2名分（未納者の30%）
過年度団体会員会費	50,000	0	
過年度購読会員会費	28,000	7,000	1会員
入会金	62,000	50,000	25名分
雑収入	259,028	200,000	別刷り印刷，雑誌販売，利子
計	6,407,361	6,283,127	

2018年度予算（自2018.4.1～至2019.3.31）

2. 支出の部

支出項目	前年度決算	予算額	備 考
通信運搬	241,563	350,000	学会誌・別刷郵送費、選挙関連郵送費、その他郵送費
消耗品	63,886	150,000	用紙、選挙に伴う用紙郵送、封筒
設備・什器	67,820	50,000	新事務局什器整備費
印刷製本	1,063,004	1,000,000	教育メディア研究25(1)・25(2)，別刷
会議費	24,500	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	0	0	ICoME2018国外開催のため
借損料	73,920	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	75,640	200,000	監査に係る旅費，事務局会旅費，事務員旅費
諸謝金	535,000	550,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	165,973	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	65,595	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	185,980	200,000	企画委員会委託費 2回分
システム運営費	0	85,000	ホスティングサーバー料金，DNS料金，選挙システム料金
論文賞賞金	0	60,000	賞金，賞状
雑費	89,208	50,000	振込手数料
予備費	56,145	2,838,127	
次年度繰越金	3,699,127	0	
計	6,407,361	6,283,127	

第 25 回年次大会のご案内【直前号】

年次大会委員会 委員長：中川一史（放送大），副委員長：中橋雄（武蔵大），山本朋弘（鹿児島大：開催地）
大会実行委員会 委員長：山本朋弘（鹿児島大），副委員長：辻慎一郎（薩摩川内中央中）

1. 日時と場所

開催期日：2018年11月24日（土），25日（日）

開催場所：鹿児島大学教育学部 第1講義棟・第2講義棟

年次大会サイト：<http://jaems.jp/conference/>

2. 大会プログラム

11月24日（土）会場：鹿児島大学教育学部

- 9:30～ 受付
- 10:00～11:30 地元企画：公開授業と振り返り
授業者：伊藤優一郎（鹿児島大学教育学部附属小学校）
小学校4年総合的な学習の時間
司会：中川一史（放送大学）
コメンテータ：佐藤幸江（金沢星稷大学）
- 11:30～12:30 昼食（昼食会場は、第2講義棟1階サロンです。）
- 12:30～13:20 総会（第1講義棟103講義室）
- 13:30～15:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
- 15:45～17:00 鼎談『教育メディアのこれまでと展望』（仮）
登壇者：堀田博史（園田学園女子大学），黒上晴夫（関西大学），
宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）
- 17:30～19:30 懇親会（教育学部食堂エデュカ）

11月25日（日）会場：鹿児島大学教育学部

- 9:00～ 受付
- 9:30～11:30 課題研究発表
- 11:30～12:30 昼食
- 12:30～14:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
- 15:00～16:20 シンポジウム『新学習指導要領における教育の情報化の展開』（仮）
登壇者：折笠史典（文部科学省），稲垣忠（東北学院大学）
山本 悟（鹿児島県義務教育課），辻 慎一郎（川内中央中学校）
コーディネータ：山本朋弘（鹿児島大学）

- ・年次大会開催日に、他学会の全国大会が予定されています。大変混み合いますのでご容赦ください。
- ・昼食は、当日に弁当の予約・販売をいたします。支払いは現金にて、業者が対応します。また、大会期間中、24日(土)は大学生協(中央食堂)が営業しています。また近隣には、学生向けの飲食店、コンビニがあります。そちらをご利用ください。

3. 課題研究プログラム

課題研究1「情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践」

コーディネータ：前田康裕(熊本大学)，小林祐紀(茨城大学)

概要：新学習指導要領において、情報活用能力が言語能力と同じく「学習の基盤となる資質・能力」と示され、各教科を横断する形で重要な能力であることが明記された。また、小学校ではプログラミング教育の必修化がされ、小学校学習指導要領の総則への記述が確認できることから、様々な学年・教科等での教育実践が求められている。情報活用能力の育成に資する教育実践の重要性は、ますます高まっている。そこで本課題研究では、情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践に関する発表を広く募集する。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教育実践に関わる者が交流し、幅広い視点からテーマについて議論できることを期待する。なお本課題研究では、メディアはICTだけではなく、幅広い概念として用いることとする。

課題研究2「教員養成、教員研修での教育メディア研究の今～知見の蓄積に向けた体制整備を考える～」

コーディネータ：小柳和喜雄(奈良教育大学)，寺嶋浩介(大阪教育大学)

概要：これまでも教育メディアを活用した取組を通じて、未来の創り手となるために必要な資質・能力、例えば学習の基盤としての情報活用能力、メディア・リテラシーなどを育成しようとする様々な取組が、教員養成、教員研修で行われてきた。しかしながら、その取組をどのように整理し、共有できる知見として表現していくかに関わって、伝統的な研究手法による手続きが壁となり、貴重な研究成果が表に出ない場合もあった。本課題研究では、教員養成・教員研修の現場で、教育メディアを内容としてとらえ教える工夫、教育メディアを方法・道具としてとらえ、それをを用いて教える工夫などについて、その持ち味を活かした研究知見を表現し、蓄積していく上で、何が壁か、何が必要となるのかを論議していく。

課題研究3「最先端のメディア研究」

コーディネータ：青木浩幸(国際基督教大学)，工藤雅之(藤女子大学)

概要：最先端技術の登場や新たなトピックの創造により、教育におけるメディア利用は発展を遂げてきた。近年関心を集める最先端技術には、プログラミング的思考、VR/AR、ゲーミフィケーション、AIとロボット、ビッグデータ、MOOCsやOER等が挙げられる。これらの教育における意味を理解し実用化を図るには、新たな観点や柔軟な発想が必要である。本課題研究ではそのような実用化の壁を破るきっかけを得られるような議論を行いたい。未完成であっても構わない。最先端のメディア利用に関する斬新な研究アイデアを募集する。

課題研究4「次期学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育」

コーディネータ：後藤康志（新潟大学），佐藤和紀（常葉大学）

概要：初等・中等教育において2020年以降順次全面実施される次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を実現させることが目指されている。社会と向き合い関わり合うためには、意図をもって構成されるメディアの特性を踏まえて、そのあり方を考える学習活動が不可欠となる。近年、ポスト・トゥールース時代と言われるように、社会とメディアを取り巻く状況が、複雑さを増している中で、メディア・リテラシー教育に関する実践・研究もひとつの転換期を迎えているといえる。そのあり方について議論することには、意義がある。こうした課題に対する研究発表を会員から募り、議論を深めたい。

4. 昼食

- ・参加者各自でお願いいたします。
- ・昼食は、当日に弁当の予約・販売をいたします。支払いは現金にて、業者が対応します。
- ・大会期間中、24日（土）は大学生協（中央食堂）が営業しています。
- ・近隣には、学生向けの飲食店、コンビニがあります。そちらをご利用ください。

5. 参加申し込み

- ・参加申し込みは、昨年通り、以下の通りとします。

会員 3000 円（事前）、4000 円（当日）

学生会員 1000 円（事前）、2000 円（当日）

非会員 4000 円（事前）、5000 円（当日） ※ただし、非会員の現職教員は無料

学生非会員 2000 円（事前）、3000 円（当日）

懇親会 5000 円（学生 3000 円）

・懇親会会場の準備の都合上、事前の参加申し込みと入金をお願いします。なお、懇親会参加費は事前・当日ともに同じ料金です。

・事前参加申し込みの締め切りは、**10月26日（金）**までとします。

・本大会においては、非会員の現職教員の場合、参加を無料と致します。できるだけ多くの参加者にご参集いただき、学会の認知や入会を促す意図がありますので、ご了承願います。

〈事前参加申し込みに関わる送金先〉

.....

銀行名：セブン銀行

店名：マーガレット支店

種目：普通

店番号：101

口座番号：0404285

名義：山本朋弘（ヤマモトトモヒロ）

.....

※振込手数料は、ご負担ください。

※ご自身の口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。

それが出来ない場合は振込後、tyamamot@edu.kagoshima-u.ac.jp にメールでご連絡ください。

大学事務局を通じた大学名による振込は、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。

・発表者は、参加費とは別に年会費を納めている必要があります。

会費に関する規定は、以下をご覧ください。

<http://jaems.jp/about/kitei/kaihi.html>

・参加者のうち学会員は、本年度の会費をできるだけ事前にお支払いください。

当日お支払いいただくこともできますが、事務局の運営にご協力ください。

なお、入金口座は、「事前参加申し込みに関わる送金先」と異なり、以下となります。

〈本年度年会費の振り込みに関わる送金先〉

.....

銀行名：ゆうちょ銀行

種目：普通

店番：418

店名：四一八店（ヨンイチハチ店）

口座番号：0865850

名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガッカイ）

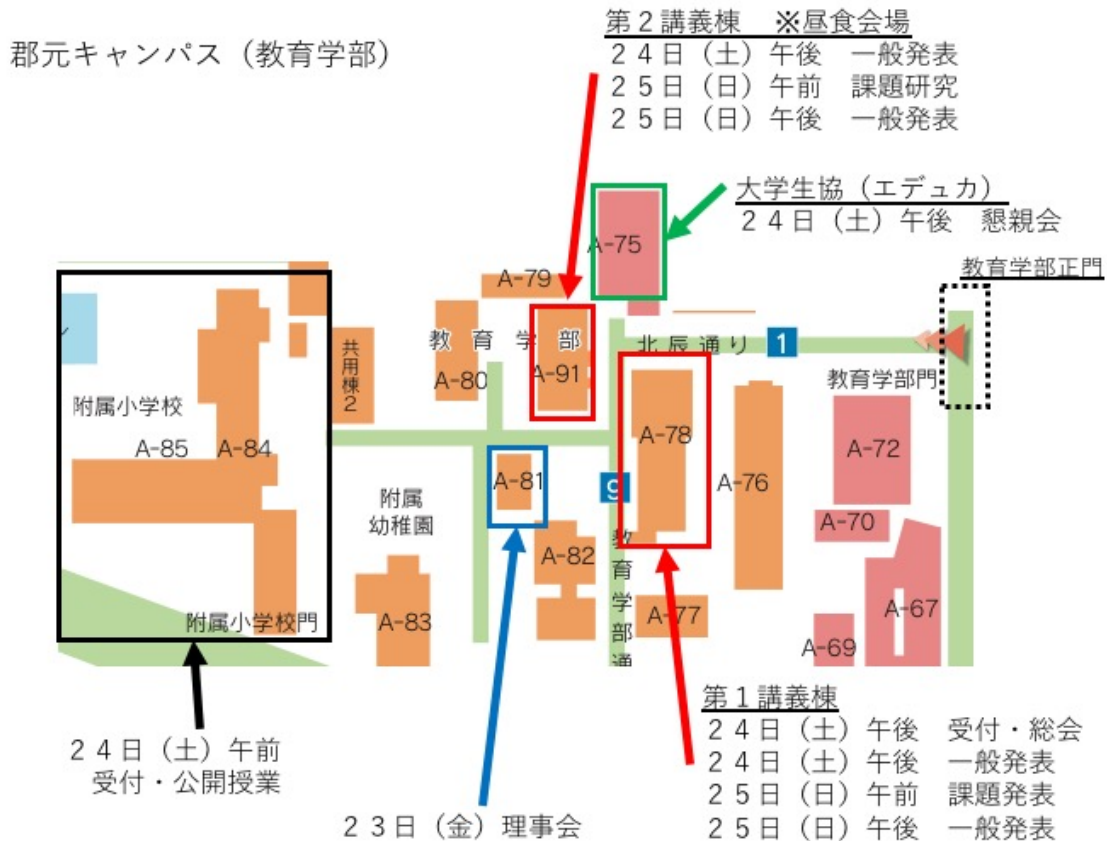
.....

6. 会場までのアクセス

- ・市電の場合 「工学部前」電停下車 ※徒歩5分
- ・バスの場合 「鹿大正門前」または「法文学部前」下車

<http://www2-edu.edu.kagoshima-u.ac.jp/access>

※大学への自家用車での入校はご遠慮ください。大学周辺のコインパーキングをご利用ください。



7. 一般研究・課題研究プログラム

公開授業 (鹿児島大学教育学部附属小学校体育館) 11月24日(土) 10:00 - 11:30

第4学年 総合的な学習の時間 「自分のキャラクターを動かしてみよう」(仮)

授業者: 伊藤優一郎 (鹿児島大学教育学部附属小学校)

司会: 中川一史 (放送大学) コメントータ: 佐藤幸江 (金沢星稷大学)

昼食 (第2講義棟サロンで昼食)

11月24日(土)

11:30 - 12:30

総会 (第1講義棟 103 講義室)

11月24日(土)

12:30 - 13:20

一般研究プログラム 11月24日(土)・1日目

13:30 - 15:30 一般研究発表 I (1件あたり 20分発表 10分質疑) ※入れ替え時間含む

◎一般研究発表の司会は、1件目と3件目の発表者から事務局にて決めさせて頂きました。何卒よろしく
お願いいたします。

◎各会場にはプロジェクターもしくは大型テレビが準備されています。PCなどの準備はありません。各
発表者にて準備のほどよろしくお願いいたします。

◎PCとの接続ケーブルに関して、RGBケーブルのみです。ご注意ください。

A1 一般研究 I-1 (第1講義棟202教室) 11月24日(土) 13:30-15:30

司会：佐藤 幸江(金沢星稷大学) 山口 眞希(金沢市立大徳小学校)

A1-1 児童の新聞教材シートに対するイメージ調査(2)

佐藤 幸江(金沢星稷大学), 村井 万寿夫(北陸学院大学), 中川 一史(放送大学),
小林 祐紀(茨城大学)

A1-2 道徳的な判断力や心情を養うための複式学級における道徳科の授業省察ー学校放送番組を活用す
る授業設計と話し合い活動に着目してー

福田 晃(金沢大学附属小学校), 村井 万寿夫(北陸学院大学),
中川 一史(放送大学)

A1-3 学校放送番組を用いたジグソー学習に関する教師の意識調査

山口 眞希(金沢市立大徳小学校), 村井 万寿夫(北陸学院大学),
中川 一史(放送大学)

A1-4 コミュニケーションプロセスとしての自律的学習ーメディアのアクセスと読解に注目した学習モ
デル作成の試みー

高林 友美(獨協大学大学院)

B1 一般研究 I-2 (第1講義棟203教室) 11月24日(土) 13:30-15:30

司会：後藤 康志(新潟大学) 木村 明憲(京都教育大学附属桃山小学校)

B1-1 教員育成指標を用いた学修成果の可視化の試み

後藤 康志(新潟大学), 伊藤 充(新潟大学)

B1-2 コーチングを取り入れたメディア・リテラシー教育の実践研究

高橋 敦志(東京学芸大学大学院連合学校), 和田 正人(東京学芸大学)

B1-3 教科書の目次から学習の見通しをもつ学習活動で思考ルーチンを活用したことによる記述内容の
比較

木村 明憲(京都教育大学附属桃山小学校), 井上 美鈴(京都教育大学附属桃山小学校),
谷口 生歩(関西大学), 黒上 晴夫(関西大学)

B1-4 タブレットを活用したブレンデッドラーニング型教員研修のための e-learning 教材の開発

上舘(山口) 美緒里(関西大学大学院/日本学術振興会特別研究員 DC),
久保田 賢一(関西大学)

C1 一般研究 I-3 (第1講義棟 204教室) 11月24日(土) 13:30-15:30

司会：生田 孝至(岐阜女子大学) 山口 好和(北海道教育大学函館校)

- C1-1 VR 授業映像を活用した校内研修の開発研究1 ー幼稚園での事例ー
生田 孝至(岐阜女子大学), 内山 渉(新潟総合学園), 雲山 晃成(美濃保育園)
- C1-2 アクティブラーニングと文字表現を活用した授業実践
加藤 範男(横須賀市立横須賀総合高等学校/京都造形芸術大学)
- C1-3 地域学習教材のマルチモーダル化に関する試みーユニバーサルデザイン・プラットフォーム・オープンデータを手掛かりにー
山口 好和(北海道教育大学函館校)
- C1-4 小学校体育走り高跳びでのタブレット端末持ち帰りによる映像視聴の効果
城井 順一(高森中央小学校), 坂本 博紀(高森中央小学校),
山本 朋弘(鹿児島大学大学院教育学研究科)

D1 一般研究 I-4 (第2講義棟 B 講義室) 11月24日(土) 13:30-15:30

司会：山本 朋弘(鹿児島大学大学院教育学研究科) 小田 理代(東北大学)

- D1-1 計算論的思考の視点からみた小学校プログラミング教育の事例の特徴
山本 朋弘(鹿児島大学大学院教育学研究科), 堀田 龍也(東北大学大学院情報学研究科)
- D1-2 小学校1年算数科における文部科学省「プログラミン」を活用した授業の効果と要因の検討
坂口 朋子(大阪市立滝川小学校), 永田 智子(兵庫教育大学大学院)
- D1-3 新小学校学習指導要領における「プログラミング的思考」の概念の各学年・教科等の分析
小田 理代(東北大学), 泰山 裕(鳴門教育大学),
堀田 龍也(東北大学大学院情報学研究科)
- D1-4 高校の情報科における振り返り力の育成に関する授業実践
小森 嵩也(関西大学大学院), 久保田 賢一(関西大学)

E1 一般研究 I-5 (第2講義棟 C 講義室) 11月24日(土) 13:30-15:30

司会：泰山 裕(鳴門教育大学) 大久保 紀一郎(島根県江津市立津宮小学校)

- E1-1 シンキングツールによる思考スキルの汎用性の認識への影響の検討
泰山 裕(鳴門教育大学)
- E1-2 大学生に日本語キーボード入力を習得させるためのシステムの要件の検討
渡邊 光浩(鹿児島女子短期大学/東北大学大学院情報科学研究科),
翟 婧璇(東北大学大学院情報科学研究科), 佐藤 和紀(常葉大学),
堀田 龍也(東北大学大学院情報科学研究科)
- E1-3 マンガの読解力に及ぼすワーキングメモリの影響から考えるマンガのメディア特性の検討
大久保 紀一郎(島根県江津市立津宮小学校/東北大学大学院情報科学研究科),
和田 裕一(東北大学大学院情報科学研究科), 窪 俊一(東北大学大学院情報科学研究科),
堀田 龍也(東北大学大学院情報科学研究科)

E1-4 思考ツールを活用した論理的な文章作成の実践と評価

三宅 貴久子 (東京学芸大学), 高橋 薫 (早稲田大学),
前川 桂美 (枚方市立菅原小学校)

鼎談『教育メディアのこれまでと展望』(仮)

11月24日(土) 15:45-17:00

登壇者

堀田 博史 (園田学園女子大学)

黒上 晴夫 (関西大学)

宇治橋 祐之 (NHK放送文化研究所)

懇親会 (大学生協エデュカ)

11月24日(土) 17:30-19:30

課題研究プログラム 11月25日(日)・2日目

9:30 - 11:30 課題研究発表

K1 課題研究1「情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践」
(第1講義棟202教室)

コーディネータ: 前田 康裕 (熊本大学), 小林 祐紀 (茨城大学)

K1-1 フォトポエム指導未経験による作品評価プロセスについての考察

石田 年保 (松山市立椿小学校), 佐藤 幸江 (金沢星稷大学), 中川 一史 (放送大学)

K1-2 小学校国語科説明文教材と物語文教材の学習者用デジタル教科書における活用の比較

中川 一史 (放送大学), 佐藤 幸江 (金沢星稷大学), 中橋 雄 (武蔵大学),
青山 由紀 (筑波大学附属小学校)

K1-3 情報活用能力の向上を図るコアカリキュラムの開発 I

前田 康裕 (熊本大学), 田中 康平 (株式会社 NEL&M)

K2 課題研究2「教員養成, 教員研修での教育メディア研究の今~知見の蓄積に向けた体制整備を
考える~」(第1講義棟203教室)

コーディネータ: 小柳 和喜雄 (奈良教育大学), 寺嶋 浩介 (大阪教育大学)

K2-1 学部から大学院につながる体系的なICT活用指導力の育成

谷塚 光典, 森下 孟 (信州大学学術研究院教育学系)

K2-2 教育系修士課程遠隔教育による高次研究効果ーテレビ会議ゼミを軸にした学術的研究の成立要件

石井 芳生 (関西大学初等部), 藤村 裕一 (鳴門教育大学)

K2-3 アクティブ・ラーニング教室を活用した 教員養成の学習環境デザイン
科 瑠 (関西大学), 久保田 賢一 (関西大学大学院)

K3 課題研究3「最先端のメディア研究」(第2講義棟B講義室)

コーディネータ: 青木 浩幸 (国際基督教大学), 工藤 雅之 (藤女子大学)

K3-1 学習者の行為を拡張する新しいメディアとその研究に関する展望
山本 良太 (東京大学)

K3-2 ゲーミフィケーションの理論の見直しとその応用における課題
林 志修 (獨協大学)

K3-3 全天球映像とヘッドマウントディスプレイによる体験型学習の支援
佐藤 慎一 (日本福祉大学), 影戸 誠 (日本福祉大学)

K3-4 最先端メディアの動向を考えるーイノベーションのジレンマ理論をもとに
青木 浩幸 (国際基督教大学)

K4 課題研究4「メディア・リテラシー教育の新しい展開」(第2講義棟C講義室)

コーディネータ: 後藤 康志 (新潟大学), 佐藤 和紀 (常葉大学)

K4-1 メディア・リテラシーの授業実践の分析による授業設計の支援の検討
佐藤 和紀 (常葉大学教育学部), 堀田 龍也 (東北大学大学院情報科学研究科)

K4-2 小学校新学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育の可能性
浅井 和行 (京都教育大学大学院連合教職実践研究科)

K4-3 小学校6年生におけるSNS上と対面でのコミュニケーションの比較
山口 眞希 (金沢市立大徳小学校), 中川 一史 (放送大学)

昼 食 (第2講義棟サロン)

11月25日(日) 11:30-12:30

一般研究プログラム 11月25日(日)・2日目

12:30 - 14:30 一般研究発表Ⅱ (1件あたり20分発表10分質疑) ※入れ替え時間含む

A2 一般研究Ⅱ-1 (第1講義棟202教室) 11月25日(日) 12:30-14:30

司会:久保田 真弓(関西大学) 菊地 寛(浜松市立雄踏小学校)

- A2-1 エンパワーメントを促すメディア活用フィリピンの事例から
久保田 真弓(関西大学), 宇都宮 大輝(関西大学)
- A2-2 市民生活のための批判的思考力の育成に寄与するストーリー教材
メナ・アラヤ・アーロン・エリー(筑波大学大学院)
- A2-3 家庭におけるNHK for Schoolの視聴をもとにした反転学習の授業デザインの検討
菊地 寛(浜松市立雄踏小学校), 村井 万寿夫(北陸学院大学), 中川 一史(放送大学)
- A2-4 モデルと自己の動きの比較による, マット運動における児童の気付きと技能獲得の変容に関する一考察
石田 年保(松山市立椿小学校), 村井 万寿夫(北陸学院大学), 中川 一史(放送大学)

B2 一般研究Ⅱ-1 (第1講義棟203教室) 11月25日(日) 12:30-14:30

司会:時任 隼平(関西学院大学) 堀田 博史(園田学園女子大学)

- B2-1 大学入学者選抜に向けた「高等学校探究活動における評価」の調査研究の設計
時任 隼平(関西学院大学), 井ノ上 憲司(大阪大学)
- B2-2 学校放送における教育的効果に関する一考察 ~児童の視点から~
水野 宗市(宮崎市立宮崎東小学校), 堀田 博史(園田学園女子大学)
- B2-3 保育でのタブレット端末活用場面における取り組みやすさの評価
堀田 博史(園田学園女子大学), 佐藤 朝美(愛知淑徳大学),
森田 健宏(関西外国語大学)
- B2-4 小規模校同士の遠隔合同授業による複式指導の充実
赤崎 公彦(徳之島町立母間小学校)

C2 一般研究Ⅱ-1 (第1講義棟204教室) 11月25日(日) 12:30-14:30

司会:小柳 和喜雄(奈良教育大学) 吉岡 有文(立正大学)

- C2-1 個別最適学習支援に関する学校での受容過程についての研究
小柳 和喜雄(奈良教育大学), 廣岡 由美(奈良市教育委員会事務局),
坂本 早苗(大日本印刷株式会社), 當間 一広(大日本印刷株式会社),
中澤 剛志(大日本印刷株式会社), 和田 勝(ワオコーポレーション)
- C2-2 コンピテンシー準拠型能力強化とその評価に関わる考察-ネパール国地方開発研修アカデミーにおけるJICAプロジェクトを事例に-
伊藤 拓次郎(アイ・シー・ネット株式会社), 鈴木 克明(熊本大学)
- C2-3 日本科学映画の生みの親 太田仁吉の初期の作品
吉岡 有文(立正大学)

- C2-4 短期大学1年次「保育実習Ⅰ(保育所)」における保育の知識領域
三橋 功一 (函館短期大学)

D2 一般研究Ⅱ-1 (第2講義棟B講義室) 11月25日(日) 12:30-14:30

司会：鈴木 克明 (熊本大学) 山本 良太 (東京大学大学院情報学環)

- D2-1 コンピテンシー準拠型研修への変換過程支援ガイドラインの考案ーエチオピア国水技術機構におけるJICAプロジェクトを事例にー
鈴木 克明 (熊本大学), 伊藤 拓次郎 (アイ・シー・ネット株式会社),
北詰 秋乃 ((株)アースアンドヒューマンコーポレーション)
- D2-2 WebRTC型Web会議システムを活用した遠隔授業の提案
池田 大樹 (宮崎大学)
- D2-3 教師の主体的な教育方法発展を意図した形成的介入の検討ーフィリピン共和国東ダバオ州の小学校を対象としてー
山本 良太 (東京大学大学院情報学環)
- D2-4 SkypeとPowerPointによる異文化間コミュニケーションの実践
田畑 圭介 (神戸親和女子大学)

E2 一般研究Ⅱ-1 (第2講義棟B講義室) 11月25日(日) 12:30-14:30

司会：柴田 隆史 (東京福祉大学) 永田 智子 (兵庫教育大学大学院)

- E2-1 360度画像と3D映像を活用したふるさと学習の実践
柴田 隆史 (東京福祉大学), 藤井 彌智 (東京福祉大学),
川道 亨 (群馬県伊勢崎市教育委員会)
- E2-2 限界集落で地域活性を目的とした正課外活動による学生の学び
木村 剛隆 (関西大学大学院), 久保田 賢一 (関西大学)
- E2-3 NHK for School「カテイカ」とTPCを活用するAL型小学校家庭科授業モデルの開発と試行
永田 智子 (兵庫教育大学大学院), 坂口 朋子 (大阪市立滝川小学校),
鈴木 千春 (兵庫県立北はりま特別支援学校),
村田 晋太朗 (兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科),
小林 裕子 (兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科),
山本 亜美 (兵庫県立兵庫高等学校)
- E2-4 学芸員が映像表現技法を習得するための学習パッケージの開発
西岡 貞一 (茨城大学), 井上 佑将 (筑波大学)

シンポジウム『新学習指導要領における教育の情報化の展開』

11月25日（日） 15:00-16:20

登壇者

折笠 史典（文部科学省）

稲垣 忠（東北学院大学）

山本 悟（鹿児島県義務教育課）

辻 慎一郎（川内中央中学校）

コーディネータ

山本 朋弘（鹿児島大学）

ICoME 2018 のご報告

研究会（国際）委員会

2018年8月15日（水）～18日（土）の間、韓国のCHUNGBUK NATIONAL UNIVERSITY(忠北大学校),Cheongjuにおいて、第16回目の the International Conference for Media in Education(ICoME 2018)が実施されました。第16回目の ICoME では、メディア祭り（media festival/showcase）の実施や学生ボランティア制度を導入するなど新しい試みが見られ、例年同様に大変な盛り上がりを見せました。学会開催校の Byun 教授（The President of Korean Association for Educational Information and Media）から、ICoME2018 のウェブページにて次のご報告いただきました。

As the representative of the KAEIM, it has been a great pleasure to make plans and prepare the ICoME 2018. This conference could not be prepared without the endless efforts of so many volunteers.

The ICoME 2018 achieved remarkable results. We had three invited speeches, and the registered participants were more than two hundred.

Fifty-two schools and organizations participated. The number of student posters was forty-one. Six roundtables were presented. Six teams demonstrated their media products at the media festival. The sixty-seven concurrent presentations were given.

However, regardless of the records, your participation completes the ICoME 2018. All of you are deserved to be recognized for adding the values to this conference. I appreciate the time you took to come and the effort you made to share the studies. The ICoME 2018 now becomes a part of the past ICoME. We are looking forward to seeing all of you at the ICoME 2019 in China.

出典：<https://www.icome.media/>より

※ 合わせて、当日の様子映像や写真もご覧になれます。

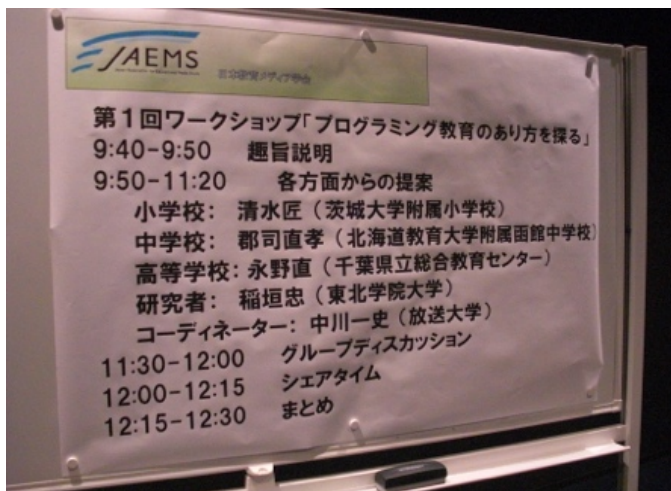
第1回企画委員会 ワークショップのご報告

第1回企画委員会 ワークショップ 「プログラミング教育のあり方を探る」

企画責任者：佐藤幸江（金沢星稜大学）
長谷川透（パナソニック教育財団）

平成30年7月8日（日）、はこだてみらい館に於いて「プログラミング教育のあり方を探る」をテーマに、企画ワークショップを実施しました。

2020年度より小学校においてプログラミング教育が必修化となります。それを巡って、教育現場等からは目的の明確化や内容の充実が求められています。文部科学省においては、2016年6月に「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について」、2018年3月に「小学校プログラミング教育の手引（第一版）」を取りまとめました。けれども、単に小学校におけるプログラミング教育を考えるのではなく、小・中・高の縦のつながりの中で、その必要性や内容を考えていく必要があるとの考えから企画を設定いたしました。



前半は、中川一史（放送大学）氏をコーディネーターに、各校種からご提案をいただきました。清水匠（茨城大学附属小学校）氏からは、小学校における「プログラミング的思考」の捉え、その考え方を基にした具体的な実践例の紹介がありました。「教科」の中で「プログラミング教育」を実施しなくてはならないという縛りが、今後も小学校における実施の高いハードルになるとの指摘がありました。郡司直孝（北海道教育大学附属函館中学校）氏からは、学校全体での情報教育の取り組み、そこに「プログラミング教育」を位置付けている現状のご報告

をいただきました。ただ、中学校の技術科教員の中には、技術科の学習内容が多岐に渡っていて時間数も足りないことから、小学校でここまでやってくれるのであれば中学校では簡単に扱えばよいと捉えている向きもあるとの課題も出されました。永野直（前：千葉県立袖ヶ浦高等学校、現：総合教育センター）氏からは、「情報コミュニケーション科」を設置し、初年度より iPad を BYOD (Bring Your Own Device: 私的デバイス活用) 形式で全員必携とし、あらゆる教科で情報活用能力を生かして学ぶ様子が報告されました。「プログラミング教育」は、問題解決の手段としての位置づけであるのご指摘がありました。最後に稲垣忠（東北学院大学）氏からは、小学校からの高等学校を見通して、各校種におけるカリキュラム・マネジメントの必要性をご提案いただきました。



進められたことをご報告いたします。

後半は、参会者を2グループに分けてのディスカッションタイムを実施いたしました。前半の様々なご提案を受けて、幼稚園からの情報活用能力育成の取組みの紹介、実施に当たっての学習環境の充実における課題、学生さんからは何を指して「プログラミング教育」が行われるのか理解が難しいなどの話題が提供され、今後各方面と連携しての取り組みが必要であることが確認されました。

参加者は22名でしたが、山口好和（北海道教育大学函館校）先生と学生さんの多大なるご協力を得て、充実した内容でワークショップが

第 2 回企画委員会 ワークショップのご案内

教育の海外展開に関する国際シンポジウム

企画委員会

日本教育メディア学会企画委員会では、教育メディア研究の国際的な広がりを目指し、「教育メディア研究の海外展開～生起する「摩擦」に着目して～」と題した国際シンポジウムを 2019 年 1 月 12 日に関西大学梅田キャンパスにて開催いたします。

本シンポジウムのキーワードは「海外展開」と「摩擦」です。日本の教育メディア研究に関する知見を海外のフィールドにて共有し、分かち合い、貢献しようとする際、どのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。シンポジウムでは、それらの際に生じるトラブル等を「摩擦」として捉え、ミャンマー、フィリピン、カンボジアにおける具体的な事例をもとに議論をします。

【テーマ】

教育メディア研究の海外展開～生起する「摩擦」に着目して～

【開催日・場所】

2019 年 1 月 12 日（土）

関西大学梅田キャンパス <http://www.kansai-u.ac.jp/umeda/access/>

12:30 受付開始

【趣旨】

本シンポジウムの目的は、我が国において蓄積されてきた教育メディア研究の知見を海外で活用する際に生じる「摩擦 (Friction)」を多様な観点から議論することです。近年、文部科学省が立ち上げた Edu-Port プロジェクトなど日本の教育知見を海外展開する活動が増加してきていますが、日本の教育知見を文化的背景の異なる国で活用する際には様々な問題が生じる可能性があると考えられます。本シンポジウムではそのような問題を「A と B の間で生じる摩擦」として捉え、その具体的な状況を事例に基づき共有するとともに、フロアーも交えたディスカッションを行います。

【パネリスト】

・ Dr.Thida Wai

(Lecturer at Methodology Department, Yangon University of Education)

・ Mr. NHEN Saroeun

(English Teacher at Siem Reap Teacher Training College)

・ Dr. Ferdinand Blancaflor Pitagan
(UNESCO Educational Consultant)

【タイムスケジュール (予定)】

時間	内容
13:00	開会の挨拶
13:10	パネリスト1 (カンボジア) 発表 *通訳有り
13:40	質疑応答
13:50	パネリスト2 (ミャンマー) 発表 *通訳有り
14:20	質疑応答
14:30	休憩
14:45	パネリスト3 (ミャンマー) 発表 *通訳有り
15:15	質疑応答
15:35	フロアーも交えたディスカッション *通訳有り
15:55	閉会の挨拶

【問い合わせ・申込み】

問い合わせ : jtokito@kwansei.ac.jp (関西学院大学・時任)

申込み方法 : 2019年11月中旬頃に日本教育メディア学会公式ホームページで公開予定

第 1 回研究委員会 研究会のご報告

2018 年度第 1 回研究会

さる 7 月 8 日(日), 今年度の第 1 回研究会が, 函館駅前の「はこだてみらい館」にて開催されました。ここ数年の方式にならい, 午前中に企画委員会との合同ワークショップ「プログラミング教育のあり方を探る」を開きました。続けて午後の方に, 研究会開催といたしました。

今回は昨年 3 月の学習指導要領の改訂を受けて, 「地域・情報・文化をつなぐ学びと教育メディア」というテーマ設定を試みました。当日は台風による悪天候の中, 近隣・遠方より 40 名の方々にご参加いただきました。また全部で 7 件の研究報告がありました。発表内容を, ごく大まかに振り返ってみます。

まず「短大生による保育所での実習活動」や「保育士・幼稚園教諭養成での音楽基礎」に関する発表がありました。これらの報告からは, 「メディアとしての学習経験」についての実績を紹介いただけたかと思えます。また「ICT 活用による音楽の自己学習支援システム」や「要支援児の自立活動におけるプログラミング学習」の発表がなされていました。それらからは, 自己認識やモニタリングといった教育メディアの機能についてのヒントを頂戴できました。

さらに, 「全日制高校でのメディア利用」「〈情報活用能力〉のカリキュラム・マネジメント」「地域学習向けライブラリの整備」といった報告からは, 教室レベル/学校レベル/地域レベル/政策レベルのそれぞれで, 教育メディア活用の充実に向けた取り組みの必要性がひしひしと感じられました。

研究会終了後の懇親会でも, テーブルのあちこちで熱い議論が交わされていました。ご発表を通じて情報提供くださった先生方, 会場を提供いただいた「はこだてみらい館」のスタッフ各位, ご参加いただいた皆様方に, この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の議論を財産に, 引き続き地域と密着した教育メディア研究を進めていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

文責：山口好和（北海道教育大学函館校）

理事会（定例）議事録（抄）

第8期 第6回理事会 議事録

[日 時] 2018年4月21日（土）13:00-16:00

[場 所] 東京（品川インターシティ）、大阪（新大阪丸ビル新館）2会場をテレビ会議で結び実施

[出席者] 会長，理事17名，委任状（議長に委任）8名，監事1名

会長 大阪：黒上晴夫

理事 東京：宇治橋祐之，浦野弘，岸磨貴子，後藤康志，鄭仁星，佐藤慎一，
中川一史，中橋雄，長谷川透，村野井 均

大阪：浅井和行，小柳和喜雄，影戸誠，久保田賢一，寺嶋浩介，永田智子，村上正行

欠席（議長に委任）：稲垣忠，佐藤幸江，鈴木克明，堀田博史，堀田龍也，山本朋弘，
林向達，渡辺雄貴

監事 東京：佐々木輝美，欠席：生田孝至

事務局 東京：山本良太，大阪：泰山裕

<審議・報告事項>

(1) 入会者・退会者・除籍者について（事務局） 【資料1】

事務局長から，前回理事会以降の入会者・退会者・除籍者について説明があり，審議の結果承認された。

(2) 2017年度事業報告・2018年度事業計画について（事務局） 【資料2-1，2-2】

事務局長から，「2017年度事業報告・2018年度事業計画案」が示され，審議の結果承認された。

(3) 団体会員規定について（事務局）

団体会員規定について議論され，次回理事会において事務局案を提案することとなった。

(4) 次期会長および理事選挙について（会長・事務局）

事務局長から選挙管理委員会の開催について報告された。

その後，次期会長の理事会推薦者について審議され，承認された。

(5) 年次大会の内容，参加費等について（年次大会委員会） 【資料3】

年次大会委員長からシンポジウム・基調講演・課題研究，共催の計画が提案された。審議の結果，公開授業・シンポジウム・基調講演のテーマ，登壇予定者は原案通り承認され，課題研究については4つのテ

ーマについて開催する計画が承認された。大会参加費については、昨年度と同様にする旨が確認された。

(6) 編集委員会 (国際担当) 【資料 4-1, 4-2】

編集委員会 (国際担当) 副委員長から、日本教育工学会、教育システム情報学会との合同英文誌の発行について検討している旨報告された。審議の結果、ICoME2018 の際に議論ができるよう準備を進めることとなった。

(7) 研究委員会 (国内担当) 【資料 5】

研究委員会 (国内担当) 副委員長から、2017 年度研究会の開催と、および 2018 年度研究会の開催日程・場所について報告された。

(8) 研究委員会 (国際担当) 【資料 6】

研究委員会 (国際担当) 委員長から、ICoME2018 開催に関する進捗状況について報告がなされた。

(9) 企画委員会 【資料 7-1, 7-2】

企画委員会副委員長から、今年度の計画について報告がなされた。

(10) 学会通信 台割案について (広報委員会) 【資料 8】

広報委員会委員長から今後の学会通信 (86~89 号まで) の台割案について提案がなされ、審議の結果承認された。ただし、研究会などの開催日程により記事掲載予定号が変更になる場合があることが確認された。

(11) 名誉会員の推薦について (事務局長) 【資料 9】

事務局長から生田孝至会員の名誉会員への推薦があり、審議の結果承認された。

(12) その他

・日本教育工学会からの依頼について 【資料 10】

日本教育工学会から EDU-Port コンソーシアムへの参加依頼があり、これを承認した。

・次回理事会開催について

11 月 23 日 (金) 午後、鹿児島大学にて開催 (第 8 期最終)

以上

論文投稿のご案内

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

㊄切：随時

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。㊄切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

学会費納入のお願い，入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日）の年会費（正会員7,000円，学生会員4,000円）が未納の方は，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ，デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために，学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は，事務局までメールアドレス，お届け先住所の情報をお送りくださる

よう、よろしくお願いたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員 (9名)・・・渡邊光浩, 山口小百合, 城井順一, 林一真, 坂口朋子,
水野宗市, 山下真由美, 池田大樹, 加藤範男

新入会員・学生会員 (2名)・・・谷口生歩, 宇都宮大輝

退会者 ・正会員 (1名)・・・石村卓也

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が, 会費を3年間滞納したとき, その年度末をもって除籍され, 会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき, 滞納会費の納入を要する。

会員総数 375名・17団体

名誉会員 : 3名

正会員 : 317名

学生会員 : 38名

団体会員 : 6団体

購読会員 : 11団体

(平成30年10月18日現在)

日本教育メディア学会 事務局	広報委員会
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内 E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : http://jaems.jp/	委員長 後藤康志 (新潟大学) 副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学) 委員 岩崎千晶 (関西大学) 井ノ上憲司 (大阪大学) 遠海友紀 (京都外国語大学)